

## 乳がんと診断された方へ

---

- (1) 乳がんの進行度と性質
  - (2) 乳がんの治療法
  - (3) 術前化学療法について
- 

### (1) 乳がんの進行度と性質

乳がんの治療方法を考えるには病期(Stage)と乳がんのタイプが重要です。

病期とはがんの進行度を表しますが、乳がんの場合は進行度のみではなく、性質によって治療法が異なります。

乳がんの進行度は、腫瘍の大きさ、リンパ節（腋窩）転移の有無、肝臓や肺・骨など他の臓器への転移の有無で決まります。これらを調べるために、乳房 MRI 検査、CT 検査や骨シンチグラフィ、PET 検査などを行います。

乳がんのタイプは、どのような薬物療法の効果が期待できるかということ予測するのに必要です。このタイプは、エストロゲン受容体やプロゲステロン受容体といった女性ホルモンの受け皿の有無と、HER2 タンパクの過剰発現の有無から分類されます。

乳がんの確定診断をするには、病変部位の組織を採取して病理組織検査を行います。乳がんが確定した場合は、その組織を利用してこれらのホルモン受容体や HER2 タンパクの過剰発現の有無を調べます。

### (2) 乳がんの治療法

乳がんの治療法には、手術療法・放射線療法・薬物療法（抗がん剤・ホルモン療法・ハーセプチン〈分子標的治療薬〉など）の3本柱があり、これらを組み合わせて治療を行います（集学的治療）。

手術療法や放射線療法は、乳房やわきのリンパ節といった局所に対する治療法です。それに対して、薬物療法は全身に対する治療法です。乳房のしこりを切除すれば治ると思われがちですが、手術のみでは、その後の転移や再発を抑えきれないことがあります。全身の治療と局所治療を組み合わせることで乳がんの根治を目指します。

#### ● 手術療法

---

乳房の手術（乳房切除または乳房部分切除）とわきのリンパ節の手術（センチネルリンパ節生検術または腋窩郭清術）を組み合わせる手術を行います。

- ・乳房切除術（全摘術）：乳房を乳頭・乳輪も含めてすべて切除します。

通常は胸の筋肉は切除しません。

- ・乳房部分切除術：乳房を部分的に切除します。部分切除の場合は、残存する乳房に放射線治療を行うことによって乳房切除と治療効果がほぼ同等

となります。

- ・センチネルリンパ節生検：小さな皮膚切開で、数個のリンパ節（センチネルリンパ節＝がんが最初に転移するリンパ節）のみを摘出し、がんの転移があるかどうかをみる検査です。センチネルリンパ節にがんの転移がない場合には、腋窩郭清を省略することができます。
- ・腋窩郭清：従来から行われている、リンパ節をすべて摘出する方法です。

## ●放射線治療

乳房部分切除を行う場合には、術後に残存する乳房に放射線治療を行います。乳房切除を行った場合にも、リンパ節転移などの状況に応じて、放射線治療が行われることがあります。

乳房への放射線治療は、通常は約 25 回に分割して行われるため、約 5 週間平日毎日の通院を要します。

## ●薬物療法

薬物療法には、抗がん剤・ホルモン療法・分子標的治療薬（ハーセプチン）などがあります。

- ・抗がん剤…がん細胞に直接働くため、ほとんど全ての乳がんに適応となります。  
抗がん剤の使用については、腫瘍のタイプや進行度、基礎疾患や全身状態、ご本人の価値観など様々なことを考慮して検討します。
- ・ホルモン剤…ホルモン受容体が存在するタイプのがんが治療の適応となります。  
このタイプのがんは女性ホルモンをえさに増大するので、女性ホルモンの作用を抑制することが治療につながります。
- ・ハーセプチン…がん細胞の膜に存在する HER2 タンパクを治療の標的としています。  
HER2 タンパクが多数みられるタイプのがんが治療の適応となります。  
ハーセプチン単独では使用せず、抗がん剤との併用で治療に用いられます。

各々の治療を単独で受ける方もいれば、組み合わせて受けられる方もいます。同じ乳がんと言っても、さまざまな治療の組み合わせが存在することになります。

### (3) 術前化学療法について

手術の前に抗がん剤治療を行うことを術前化学療法といいます。

以前は手術で病変を切除してから術後に抗がん剤治療を行っていましたが、手術の前に抗がん剤治療を行うのと、手術の後に抗がん剤治療を行うのとでは、その後の再発や転移の確率に差がないことがわかり、最近では術前化学療法が選択されることが多くな

りました。術前化学療法を行う場合には、いくつかのメリットがあります。

- 抗がん剤の効き具合を確かめながら治療を進められる
- がんを小さくしてから切除することが可能となる
- がんが消失した場合には予後が良好である

抗がん剤はすべての方に効果があるわけではありません。手術前の抗がん剤治療では、治療中に腫瘍の大きさをみることで、抗がん剤の効き具合を確かめることができます。また、術前化学療法によって腫瘍の縮小が認められる場合は、乳房切除しかできないと思われていた方が、部分切除での治療が可能となることがあります。さらに、治療でがんが消失する場合もあり、そういった方はその後の経過も良好であることがわかっています。